

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

Challenge, Change, Smile !

(自らの力を高め、視野を広げるためのチャレンジ、自分自身の可能性を高め、自己変革をめざすためのチェンジ、そして笑顔が絶えないスマイル)を合言葉に生徒が来たいと思う学校、来て良かったと思える学校をめざす。・・・そのために

- 1 生徒に「学ぶ楽しさ、わかる喜び」を実感させ、学力の向上に取り組む。
- 2 生徒が社会の一員としての自覚と規範意識を持ち、責任ある行動をとることができるよう生徒指導を充実させる。
- 3 生徒が学習活動・学校行事、部活動等に積極的に参加するとともに主体的に進路を選択し、豊かな自己実現を図れるよう支援する。
- 4 生徒が自らを律し他者を尊重し、思いやる心を持ち、人権や生命を尊重する精神を育む教育に取り組む。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 高大接続改革実行プランや新学習指導要領を踏まえ、主体的・協働的な学びの推進、「学ぶ、わかる」を実感させる授業改善と教員の資質向上に取り組む。
 - ア 授業力向上 PT を中心に、これまでの取組みを強化し、更なる授業改善に取り組む。
 - イ 「ICTを活用した授業展開」や「アクティブラーニング (AL)」についての研修・研究をすすめる。
 - ウ ベル始めを徹底し、45分だからこその授業を展開する
 - エ 大学入試制度の転換に対応するため、3年間を見通した指導内容や指導方法、評価の見直しを図り、観点別評価を確立する。
 - オ 学習習慣を身につけさせるための取組みを教科・学年分掌の年間計画に位置付け実施する。
 - *** 学校教育自己診断 (生徒)「授業は分かりやすい」(H28:45%)を3年後には65%にする。
- (2) 国語力、英語力の向上とともにプレゼンテーション能力を育成する。
 - ア 英語検定、漢字検定の在り方を検討し受験者の増加及び合格率の向上に取り組む。
 - イ 生徒の主体的・協働的な学びを通して発表の機会を多くするなど、全ての授業で言語活動を重視した取組みを推進する。
 - *** 検定の受験者数を10%ずつ増加させ3年後には30%増をめざす。合格者を5Pずつ向上させ3年後には15P増をめざす。
 - *** 学校教育自己診断 (生徒)「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」(H28:53%)を3年後には70%にする。

2 豊かな自己実現の支援・夢や目標を持った生徒の育成

- (1) 志学、キャリア教育、人権教育等について、「総合的な学習の時間」と「LHR」を連携させ3年間を見通した統合的な指導計画を確立する。
 - *** コア会議が核となって検討を進め平成31年度には計画を完成させる。
- (2) 進路指導の充実を図る。
 - ア 進学希望者に対する講習会を計画的、継続的に実施するシステムを確立し、目標の大学や専門学校への進学決定率を高める。
 - イ 就職希望者に対しては、面接指導と共にマナー・服装・態度・言葉遣いについての指導を強化し希望先への内定率100%をめざす。
 - ウ 指定校推薦の校内選考の在り方を検討する。
 - *** 公募推薦、一般受験での合格率を高める (H28:29.4%、21.2%) ⇒ H31には45%、30%をめざす 希望先就職内定率 100%
- (3) ルール、マナーの遵守と規範意識の涵養

安全で安心、気持ちの良い学校生活を送るために、進んで挨拶を行い共にルールやマナーを遵守できる生徒を育成する。そのために「厳しさと優しさ」を基本理念にし、学校生活や授業規律について、生徒に守らせるべき最低限のルール(港スタンダード)を徹底し、組織的・統一的な指導を行う。

 - ア 挨拶運動に教職員全員で取り組む。
 - イ 服装・頭髪・装飾品等の指導強化に取り組む。
 - ウ 遅刻者数の減少に取り組む。
 - *** 学校教育自己診断 (保護者「生徒指導の方針に共感できる」生徒「先生は協力して生徒指導にあたっている」)(H28:80.5%、45%)を3年間で共に80%にする。
 - *** 遅刻者数 (H25:14000 ⇒ H26:8300 ⇒ H27:6300⇒ H28:6900) を3年間で半減させる。
- (4) 生徒の自主活動の育成・活性化
 - ア 様々な機会を通じて部活動の魅力や意義を伝えることに努め、部活動への参加・加入率を高める。
 - イ 3年間を見通した学校行事の在り方を検討し、平成31年度までに行事計画を再構築する。
 - ウ 生徒自治会活動を活性化すると共に生徒のリーダー育成に取り組む
 - *** 部活動加入率 (H28:55%) を3年間で65%にする。
 - *** 学校教育自己診断 (生徒)「港高校で充実した高校生活を送っている」(H28:70%)を3年間で80%にする。
- (5) 不安や悩み、障がい等のある生徒への支援の充実

教育相談体制の充実、保護者や関係機関との連携を強化し、情報共有に努め、必要な生徒に適切な支援・指導を行う。

 - *** 学校教育自己診断 (保護者「心身の悩みについて教育相談できるシステムが学校にあることを知っている。」・生徒「担任以外に気軽に相談できる先生がいる」)(H28:42.3%、54%)を3年間で65%以上にする

3 学校運営体制の強化・改善

- (1) 「コア会議」(校長、教頭、首席、指導教諭、学年主任)が発案し、運営委員会が企画検討の中心となって学校経営戦略の具体化を推進する。
 - ア 学年が副担任を含めた組織(学年団)として機能し、各分掌は学校経営計画に則り、リーダーシップを発揮できるように組織体制を強化・改善する。
 - イ 学年の独自性は尊重しながらも継続性・連続性のある3ヶ年計画を作成する。
 - ウ 会議での情報発信や協議の場の創設により、教員一人ひとりが学校経営に参画しているという自覚を高める。
 - *** 学校教育自己診断 (教員)「学校運営に教職員の意見が反映されるような仕組みがある」(H28:31%)を3年間で65%とする。
- (2) 教員力向上

研修等の機会を充実すると共に中堅・ベテラン教員が初任者及び若手教員の育成を担当することで自らの力量を高める。(OJT)
- (3) 広報活動と地域連携の充実
 - ア ホームページの適時更新などできるだけ多くの情報発信に努める。中学校訪問を継続し広報活動を活発にする。
 - イ 地域連携を推進し、地域から愛される学校をめざす。
 - *** 学校教育自己診断 (保護者)「港高校のHPをよく閲覧する」(H28:30.8%)を3年間で50%とする。
- (4) 防災教育・防災活動の充実

平成26年2月に作成した港高校防災シミュレーションを点検、見直しを図り、本校の実態に応じた効果的な防災教育を実践する。
- (5) 教職員の長時間勤務の縮減

時間外労働縮減に向けた取組みの促進や勤務時間管理及び健康管理を徹底。

 - *** 時間外労働時間において、3年後には20%以上削減とする。(H29は10%・H30は15%・H31は20%以上へ)

4 校内学習環境の改善と美化清掃の徹底

- (1) 学習環境の維持・向上に努め、環境改善のための予算確保に努力する。
- (2) 緑化の推進や各室、倉庫等の整理整頓に努め、校内清掃を徹底し気持ち良い学習環境の維持に努める。
 - *** 学校教育自己診断 (保護者・生徒)「清掃活動はきちんと行われている」(H28:75.4%、61%)を3年間で80%とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見																								
<p>回収率</p> <table border="1" data-bbox="128 350 947 507"> <thead> <tr> <th></th> <th>1 年生</th> <th>2 年生</th> <th>3 年生</th> <th>全学年</th> <th>回収率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>311</td> <td>307</td> <td>301</td> <td>918</td> <td>96.7%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>240</td> <td>122</td> <td>102</td> <td>575</td> <td>60.6%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>55</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>教職員の回収率が 100% となった。保護者の回収率を UP させたい。</p> <p>実施対象 (教職員・1～3 年生全生徒・1～3 年生全保護者)</p> <p>◎ 生徒向け、保護者向けには 16 の質問項目を設定し、授業や進路指導、生徒指導や教育相談体制、学校行事などについてアンケートをとった。また、教職員へは 26 の質問項目で振り返りのアンケートをとった。保護者からのアンケート回収率は 60% は超えたが、教育活動への関心の低さが伺える。</p> <p>◎ 集計結果については、生徒・保護者・教職員の順で、高い肯定回答が寄せられ、一定の教育活動の評価や満足度が確認できた。教職員の集計結果は、学校組織体制の見直しや教員間での信頼関係の構築など、前向きな意見が見られた。</p> <p>◎ 集計結果については、生徒や保護者へフィードバックをし、教職員については昨年度との比較や今年度の分析と共に配布をし、教育活動の見直し・振り返りを図った。さらに、学校HPに結果をアップし、地域・保護者にも伝えた。</p> <p>◎ 生徒アンケートでは、 【学習面】 「先生は教え方にさまざまな工夫をしている」「将来の進路や生き方について考える機会がある」「命の大切さや人権について学ぶ機会がある」などの設問で肯定的な回答が多いが「学校の授業はわかりやすい」の肯定値が低いことが課題。研修、相互授業見学、他校見学、補習、講習等、不断の努力と工夫を重ねていく。</p> <p>【否定的な意見が多い項目】 「港高校の生徒であることに誇りを持っている」の肯定値が低い また、「学校の規則やルールをよく守っている」や「先生が行っている指導には納得できる」の肯定値も低い</p> <p>【授業以外】 「学校の行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」「保護者あての学校からの配布物は保護者に手渡している」では肯定値が高い生徒が多い。特にこのことは、家庭との連携を取っていくうえで大切なことで、学校への期待度が高くなったためだと思われる。</p> <p>◎ 保護者アンケートでは、 「子どもは学校に楽しく通っている」 「通知票を各学期、各考査ごとに確認している」 「学校を訪れた時、清掃活動が行われていると感じる」 「学校行事では、子供は楽しそうにしている」 の質問に対して肯定値が高い。保護者は肯定的に見ている。 ・生徒本人達の感覚と温度差がある。 生徒「行くのが楽しい」 肯定 68% 保護者「楽しく通っている」 肯定 87% 教職員「生徒は学校生活を楽しんでいる」 肯定 89%</p> <p>・保護者は学校に協力的な視点を持ちある程度信頼を寄せていただいている。この評価に安心することなく、保護者、地域のご意見をいただきながら努力していかなければならない。</p> <p>【アンケートからみる来年度に向けての課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 保護者からのアンケート回収率 10% (回収率 UP への努力) ② アンケート結果の温度差の是正 (保護者と生徒の肯定感の差) ③ 生徒・教職員の学校の生徒指導方針についての肯定感 UP へ ④ HP の充実・更新回数 UP ・閲覧回数 UP へ ⑤ 教員間での授業方法等の検討機会の肯定感をさらに UP へ 		1 年生	2 年生	3 年生	全学年	回収率	生徒	311	307	301	918	96.7%	保護者	240	122	102	575	60.6%	教職員	-	-	-	55	100%	<p>< 第 1 回協議会 ></p> <p>(1) 「平成 28 年度学校経営計画及び学校評価」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板を使用していることはよくやっているという印象 ・進路実現は学校の顔。そのための指導をもっと重点的にやる ・土曜日の活用ができていない。平日の放課後に補習を実施 ・部活加入率をもっと上げる必要がある。男子は 65% を上回っているが女子が低いため、全体で 58% となっている。 ・元気いっばいの学校にするには挨拶は必須。 ・進路実現につなげていくには、生徒のモチベーションをあげていく必要がある。 ・「学校運営に教職員の意見が反映されている」が、31% しか肯定的回答がない。校長に伝えても…という意識があるように思う。 ・研修を多くしすぎているのではないか? という意見もあるため減らす方向へ ・「地域連携」挨拶運動、美化活動を中心にしていけばいいのではないか <p>(2) 「平成 29 年度学校経営計画」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英検、漢検に力を入れる→これから大学受験が変わる。英検に関しては全員受験を目標 ⇒ 大学進学率 7 割に、10 割の生徒が希望進路実現 ・遅刻者数を 3 年間で半減させる (2500 くらいまで) ・部活加入率を 65% にする→学校を変えるのに必要 ・特定の者への仕事が増。やらなければならない仕事時間のかかる仕事が増えている。 <p>(3) 本校の現状と課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価の完全導入の必要あり。新要領前にやらないといけない。 ・AL などの授業方法については教員側が受け入れる必要があるように思う。 ・港高校に入って何かしたい!と思わせる必要がある ・部活と進路の両立についてどちらも頑張れ、でどっちつかずになっている。 ・大学へ行った後、どうするのか、を考える時間をもっといいのか? <p>< 第 2 回協議会 ></p> <p>(ア) 「H29 9 月進路マップ オリジナル質問」の結果報告と考察</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 生徒の目的を明確にし、生徒と保護者の学校に対する満足度を調査する。 生徒と保護者に対して学校に対しての満足度を調査することによって、学校のあり方、改善点等を見直すことができる。 ② 生徒の現状について アンケートの結果から、港高校では自分の欲求に対してエネルギーを消費し、本分である学業等へのモチベーションが低下している。 生徒に明確なビジョン (目的) を持たせ、モチベーションを向上させる必要がある。 アルバイトについて、生徒の家庭環境に合わせて対応していく必要がある。 スマートフォンの普及により、生徒が教えてもらうという形が減少し、自ら調べて解決するという自己解決型になっているため、自ら発言する者が減少している。 <p>(イ) 今後の港高校の在り方</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 少子化に伴う、クラス数の減少に対して、港高校の強みを作る。 100 校以上の中学校から生徒が来る学校であり、それを強みにして地域を問わずにさまざまな学校から生徒を募集することができる。 “伝統ある港高校” というネームバリューを活用する。 府内外を問わず、国内で学校同士の連携を図っていく。 伝統校であることを活用し、後援会での奨学金の援助を呼びかける ② 現状の課題解決に向けて 遅刻者を減少させるために、遅刻したら罰を与えるのではなく、なぜ遅刻したのかという点に焦点を当て、生徒の時間を守らせる気持ち育成することが重要である。 <p>< 第 3 回協議会 ></p> <p>(1) 平成 29 年度学校教育自己診断結果より</p> <p>質問《港高校へ行くのが楽しい》保 87%、教 89% に対して、生徒 64% と低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 保護者は「生徒が学校に通っている＝楽しくやっている」と考えているのではないか。 ➢ 生徒自身の気分の浮き沈みから、楽しいときが持続しない。結果として記入したのでは。 <p>質問《港高校の生徒であることに誇りを持っているか。》肯定的な意見は 38% と低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 生徒の自己肯定感、所属感が低いことが要因 ✓ 生徒を褒めることによって自己肯定感の向上を促す。 ✓ 部活の活躍などを学校全体で共有する。 ✓ 努力している姿を見ることにより、自己肯定感を得られる。 <p>質問《港高校の生徒は学校の規則やルールを守っている》41% が肯定、否定的意見多い</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 多くの学校で同じような結果が見られるため、重く受け止めすぎない。 ✓ 真面目な生徒と不真面目な生徒が二極化しているため。 ✓ 「あなたは規則を守っていますか」という質問形式のほうがよい。 <p>(2) 平成 29 年度及び平成 30 年度学校経営計画及び学校評価(案)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 29 年度と 30 年度学校経営計画及び学校評価の比較 ② 31 年度からの 50 分×6 限授業について 45 分では生徒が活動する授業などでは時間的に厳しくなってきた。 50 分授業を実施するとともに、放課後講習、朝学を導入する。 その移行期として有効な学校経営計画になるように考えてほしい。
	1 年生	2 年生	3 年生	全学年	回収率																				
生徒	311	307	301	918	96.7%																				
保護者	240	122	102	575	60.6%																				
教職員	-	-	-	55	100%																				

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 確かな学力の育成</p>	<p>(1) 主体的・協働的な学びの推進、「学ぶ楽しさ、わかる喜び」を実感させる授業改善と教員の資質向上に取り組む。 ア 授業力向上PTを中心に、授業改善の取組みを強化し、更なる授業改善に組織的に取り組む。 イ ICTを活用した授業展開やアクティブラーニング(AL)について研修・研究をすすめる。</p> <p>ウ ベル始めを徹底し全教員が45分を有効に使った授業を展開する</p> <p>エ 教科会議を充実し、各教科で3年間を見通した指導内容や指導方法、評価の見直しを図り、観点別評価を確立する。</p> <p>(2) ア 英語検定、漢字検定の在り方を検討し受験者の増加及び合格率の向上に取り組む。</p>	<p>(1) ア、イ 教員研修の実施、他校への授業見学や研修参加等により研究を進め、ICT活用、主体的・協働的な学びを取り入れた授業改善に取り組む。 6月：授業観察デイ、11月：各教科での研究授業、1月：成果・課題の発表会、3月まとめを実施。 教員個々については、授業アンケート後の振り返りシートの提出を必須とし、それを活用した授業改善の取組みを推進する。</p> <p>ウ すべての教員がベル始めの完全定着をめざす。</p> <p>エ① H28の課題を踏まえ、教科の目標を明確にし、生徒の実態に適合した指導内容、方法、評価方法を教科会議で協議し1月の成果発表時に進捗状況として報告、3月に次年度の計画を立案する。 ② 研究授業の実施者任せにならないように教科会議で役割分担やスケジュール等を明確にする。</p> <p>(2) ア 卒業までに全員が英検、漢検の何れかの級または両方を取得するシステムを検討する。受験への挑戦や結果を評価に反映させるなどインセンティブ制度の導入を検討する。</p>	<p>(1) 学校教育自己診断(教員) ア「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に活かしている」、「授業方法等について検討する機会を積極的にもっている」(H28:51%、59%) ⇒65%に イ「教員間で授業方法について検討する機会を積極的に持っている」、「効率よく授業を進めるためにICTを活用している」(H28:59%、64%) ⇒65%以上に ウ ベル始め実施率(授業観察時評価)80% エ「教科会において指導法についての議論や研究、教材開発に取り組んでいる」(H28:44%)⇒65% 「授業は分かりやすい」(生徒)(H28:45%)⇒60% 「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」(H28:55%)⇒65% 振り返りシート提出率(H28:100%)⇒100%</p> <p>(2) ア 検討進捗状況 受験者数</p>	<p>(1) ア(◎) 「次年度の計画に活かしている」51%→51% 「機会を積極的にもっている」59%→84% イ(◎) 「機会を積極的にもっている」59%→84% 「ICTを活用している」64%→67% ウ(○)ベル始め実施率80%→85% エ(△)「議論や研究開発に取り組んでいる」44%→52% 「授業は分かりやすい」45%→50% 「考えをまとめたり発表する機会がある」55%→53% 振り返りシート提出率100%→100%</p> <p>(2) ア(◎) 1年はGTEC・漢検は全員受験 2.3年の英検受験者数のべ163名 2.3年の漢検受験者数のべ32名 *次年度以降も全員受験を推進予定、さらにそのための学習の取り組みなどの発展を予定</p>
<p>2 豊かな自己実現の支援・夢や目標を持った生徒の育成</p>	<p>(1) 志学、キャリア教育、人権教育等「総合的な学習の時間」と「LHR」を連携させ3年間を見通した統合的な指導計画を確立する。</p> <p>(2) ルール・マナーの遵守と規範意識の涵養 全教員が一致して生徒に守らせるべき最低限のルール(港スタンダード)を徹底し、組織的・統一的な指導を行う。 ア 挨拶運動に全教員で取り組む。 イ 服装・頭髪・装飾品等の指導強化 ウ 遅刻者数の減少に取り組む。</p> <p>(3) 生徒の自主活動の育成・活性化 ア 部活動の参加・加入率を高める。 イ 3年間を見通した学校行事の在り方を検討し、平成31年度までに行事計画を再構築する。</p>	<p>(1) コア会議において検討 学年毎の計画から、学校全体として3年間を見通した計画への改善に取り組み、平成30年度から年次進捗で実施する。</p> <p>(2) 授業の場が最大の生徒指導であるという自覚の下、全教員が授業で生徒にしっかりと向き合う。声掛けを頻繁に行い、発問を多用し双方向性の授業を行うことで生徒のやる気を引き出す。指導に従わない時は、放置せず担任、副担任と連携して粘り強く指導に当たる。 ア 全教職員が名札を着用、挨拶運動に取り組む。教職員が率先して笑顔で挨拶を行うことで来校者に対して生徒が自然に挨拶できる環境を醸成する。 イ 指導に齟齬が出ないよう全教職員が一致協力して生徒指導に当たる。生徒の理解を促す話を適宜行うと共に自治会活動としての取組みを検討する。 ウ これまでの指導方法を見直し個々の生徒に着目した新たな指導方法を検討実施する。</p> <p>(3) ア 様々な機会を通じて部活動の魅力や意義を伝えることに努め、部活動への参加・加入率を高める。クラブ体験期間の実施、部活加入者のインセンティブ制度について検討する。 イ コア会議で協議、課題について自治会を中心に生徒にも検討させ、運営委員会で概要案を作成する。</p>	<p>(1) 検討の進捗状況</p> <p>(2) ア 学校協議会での意見、外部(来校者)評価 イ 学校教育自己診断(生徒) 「先生は協力して生徒指導に当たっている」(H28:44%)⇒65% ウ 遅刻者数 H28(6975)比20%減</p> <p>(3) ア 部活動加入率(H28:58)⇒65% イ 検討・計画の進捗状況 生徒自治会での検討回数見直した行事・企画の数</p>	<p>(1) (○) 年間で25回実施 港マップの作製</p> <p>(2) ア(△)協議会で高評価 「生徒指導の方針には共感できる」81%→71% イ(△) 「協力して生徒指導に当たっている」44%→48% ウ(△) H28(6975)→H29(6785) 約3%減 早朝登校指導・放課後指導の導入</p> <p>(3) ア(△) (H28:58%)→52% 生活実態調査で傾向の把握をし 対応策を考察・来年度の部活動勧誘形態を刷新 イ(○) 年間行事予定作成時検討 H31より 宿泊研修は1泊2日 修学旅行は3年契約</p>

府立港高等学校

<p>3 学校運営体制の強化・改善</p>	<p>(1)「コア会議」(校長、教頭、首席、指導教諭、学年主任)が発案し、運営委員会が企画検討の中心となって学校経営戦略の具体化を推進する。</p> <p>ア 学年が担任だけでなく副担任を含めた組織(学年団)として機能するように、また各分掌が学校経営計画に則り学校教育自己診断の意見を参考としながらリーダーシップを発揮できるように組織体制を強化・改善する。</p> <p>イ 学年の独自性は尊重しながらも継続性・連続性のある3ヶ年計画を作成する。</p> <p>ウ 会議での情報発信や議論(協議)の場の創設により教員一人ひとりが学校経営に参画しているという自覚を高める。</p> <p>(2)広報活動と地域連携の充実</p> <p>(3)防災教育・防災活動の充実 平成26年2月に作成した港高校防災シミュレーションを点検、見直しを図ると共に本校の実態に応じた効果的な防災教育を実践する。</p> <p>(4)教職員の長時間勤務の縮減</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校教育自己診断の結果と共に自由記述の内容を全教員に配付し教員一人ひとりが課題や要望をしっかりと把握すると共に個人、教科、学年、分掌其々のレベルでどのように対応していくかを明確にする。自己申告票は勿論、教科、学年、分掌の年度当初の目標設定に組み入れ実働していく。</p> <p>イ コア会議で引き続き検討し、72期生がプロトモデルとなるように検討、年次修正を加えつつ次期に引き継ぎ平成31年には完成させる。</p> <p>ウ 学年会や分掌会議で各主任が運営委員会での必要な情報を伝えると共に学年や分掌上の懸案や課題について全教職員が共有すると共に意見交換できる場を創設し共通理解を図る。(時間的制約から紙ベースでの報告に終わっている総括や年度当初目標設定等について意見交換する時間を設ける)</p> <p>(2)</p> <p>ア ホームページの新たな活用方法を工夫・検討し広報活動を充実する。</p> <p>イ 挨拶運動、校内外美化活動の継続実施、港区役所、波除町会、波除保育園、波除小学校、市岡東中学校(他地元中学校)と連携した企画を実施する。</p> <p>(3)教育庁から提示される予定の大規模災害発生時の「初期対応マニュアル(仮称)」を基に本校の防災シミュレーションを点検し、改定を行う。</p> <p>(4)時間外労働縮減に向けた取組みの促進や勤務時間管理及び健康管理を徹底。一斉退庁日の設定や部活動休養日の明確化など、時間外労働縮減に向けた取組みの促進や勤務時間管理及び健康管理を徹底。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校教育自己診断(教員)「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」 (H28:36%) ⇒ 60%</p> <p>イ コア会議の検討・進捗状況 港MAPの検討進捗状況 検討回数(H28:5回)</p> <p>ウ 学校教育自己診断(教員)「学校運営に教職員の意見が反映されるような仕組みがある」 (H28:31%) ⇒ 60.0%</p> <p>(2)</p> <p>ア 更新頻度(H28:1/1W)</p> <p>イ 実施企画数 (H28:8企画) ⇒ 10企画</p> <p>(3)点検実施、改定の進捗状況 作成のための会議・検討回数 (H28:0回)</p> <p>(4)時間外労働時間を10%削減 (H28:80時間以上 のべ32人 100時間以上 のべ29人)</p>	<p>ア(△) 「連携が円滑に行われ有機的に機能している」 36%→40% H30から担任会から学年団会議に変更。担任だけでなく副担任を含めた組織として機能させる。</p> <p>イ(○) 港MAPの作製</p> <p>ウ(○) 「意見が反映されるような仕組みがある」 31%→45%</p> <p>(2)</p> <p>ア(△) 更新頻度 1/1W 「HPを閲覧することがある」が43%と低い。 組織として対応する必要がある。</p> <p>イ(○) 挨拶運動 校内外美化活動 港区役所 波除町会 波除保育園 波除小学校 市岡東中学校 (他地元中学校)</p> <p>(3)(○) 大規模災害発生時の初期対応マニュアルを港区役所と協議の上作成。会議・検討回数3回</p> <p>(4)(△) (H29:80時間以上 のべ44人 100時間以上 のべ20人 総残業時間 27252時間) 時間外労働時間の削減は横ばい状態</p>
<p>4 校内学習環境の改善と美化清掃の徹底</p>	<p>(1)学習環境の維持・向上に努め、環境改善のための予算確保に努力する。</p> <p>(2)緑化の推進や各室、倉庫等の整理整頓に努め、校内清掃を徹底し気持ち良い学習環境の維持に努める。</p>	<p>(1)学校経営推進費を獲得に手をあげたり、各種教育改革の企画などに応募する</p> <p>(2)生徒の清掃活動の活性化を図る。(①学級単位 ②部活動単位 ③行事)</p>	<p>(1)教育予算のコンペ参加回数</p> <p>(2)学校教育自己診断(保護者・生徒)「清掃活動はきちんと行われている」を80%、65%にする。 (H28:75.4%、61%)</p>	<p>(1)(○)0回→3回</p> <p>(2)(△) 「清掃活動はきちんと行われている」 保護者 75.4%→78% 生徒 61%→56%</p>